



News Letter ☆ PIANC-Japan

国際航路協会 日本部会ニュース

November 2011 (Vol.11-2) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

第 66 回 PIANC 評議会 (Council) 報告

PIANC-Japan 事務局長
柳 生 忠 彦

開催日時： 2011 年 10 月 21 日、09:00～
12:00

開催場所： フランス港湾協会会議室
(L'Union des Ports de France)

出席者： 各国代表(詳細は本部作成議事録
に掲載予定)
日本(小野憲司 近畿整備局副局
長、山本大志 港湾局国際調整官、
川嶋康宏 PIANC 副会長、須野
原豊 PIANC-Japan 会長、柳生
忠彦 PIANC-Japan 事務局長、
成川和也 住友ゴム)

議事等： 今回は新会長 (Mr. G.Caude) が
就任して最初の Council である
こともあり、パリで開催された。
次回からは通常で開催場所であ
るブラッセルで開催されました。
なお、議事次第は PIANC-Japan
のホームページに掲載。

1. 開会あいさつ (会長)
2. 前回議事録の承認：異議なく承認された。
3. 前回評議会以降の懸案事項：一覧表
(PIANC-Japan ホームページに掲載) に
より懸案事項の進捗状況が報告された。特
に問題となる事項はない。
4. 会員の動向と財務報告：財務委員会
(FinCom) 委員長から報告。会員数が減
少している。財務状況については、会員数
の減少 (個人;130 名、団体;43) による収

入減 (約€30,000) となっているが、印刷
物の電子化により支出も減少している。
YP 会員の増や地域の活動強化について副
会長が積極的に活動する。

5. 途上国委員会 (CoCom) 行動計画：開発
途上国向け研修に関する WG126 (2007
年設立) の活動が中断されているので、こ
の WG を改組して Training SC の元、各
国の途上国向け研修に関するデータベー
スを整備する。詳細は PIANC-Japan ホー
ムページに掲載。
6. Nord PIANC (PIANC 北欧グループ) と
Smart Rivers (ニューオーリンズ) の
活動報告：エストニアから Nord PIANC
会議 (2011.9.1～3) の内容が、また Smart
Rivers (2011.9.13～16) についてはアメ
リカ代表からパワーポイントを使って紹
介された。
7. 会議での論文数などの問題：最近の会議で
は論文数が増加したため、4 以上のセッシ
ョンを同時に開催して対応している。セッシ
ョンが多すぎると聴講したいプレゼン
テーションが重なることになる。このよう
なことを避けるため、セッションの数を 3
程度にするのが適当であるとの議論がさ
れた。

Working with Nature Award の設立：環
境委員会 (EnviCom) の委員長から賞の
創設について紹介があった。

8. 自然にやさしいプロジェクトを登録して
もらい、登録されたプロジェクトを委員会
で評価して、PIANC の認定プロジェクト
としてホームページや記者発表をする。4
年に一度のコンGRESSにおいて最優秀プ
ロジェクトなどに賞を授与する。詳細は

PIANC-Japan ホームページに掲載。

9. 各種国際会議の準備状況報告：PIANC-COPEDEC (2012.2.20～24、チェンナイ、インド、詳細は www.pianc-copedec2012.in) の開催。AGA-Mediterranean Days (2012.5.21～25、バレンシア、スペイン、詳細は www.iimeddays2012.org) の開催。今後の会議予定についての詳細は PIANC-Japan ホームページに掲載。

10. PIANC の PR 用資料等：改定した資料の紹介がされた。詳細は PIANC-Japan ホームページに掲載。

11. インベントリーの作成：PIANC の活動基盤である、Waterborne Transport Infrastructure のインベントリーを作成するため、各国から入力できるテンプレートを作成する。

12. 会議終了後、セーヌ川の船上視察並びに昼食会が開催された。



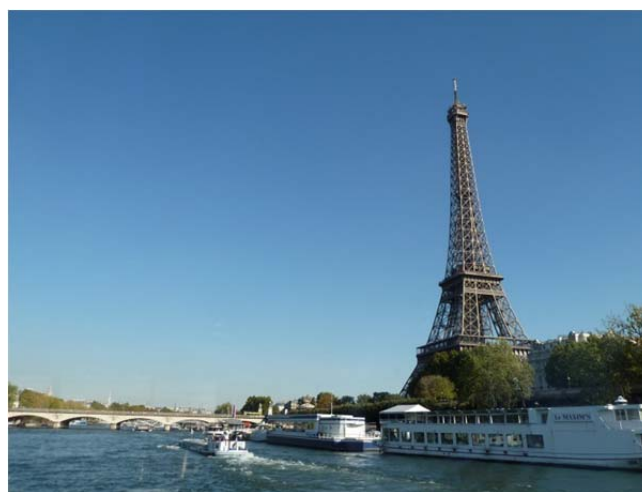
正面会場に向かう日本代表団



会議の様様



セーヌ川視察と昼食会の様様



秋空のもとのエッフェル塔

PIANC, MarCom(於ニュー・オリンズ)
の報告

(社) 日本港湾協会 企画部長
樋口嘉章

PIANC の MarCom は、年に 2 回、2 月と 9 月に開催されています。2 月は ExCom と時期を合わせてブリュッセルで開かれ、9 月はメンバー国の持ち回りで開催されています。9 月の会議の際は、現場の視察があわせて企画されます。

メンバー国は米国、日本以外ヨーロッパの国なので、9 月はたいていヨーロッパで開催されることになるのですが、今回の MarCom は PIANC の Smart Rivers 2011 が米国のニューオリンズで開催されたのにあわせて、9 月 15 日にニューオリンズで開催 (9:00~19:00) されました。

今年の年次総会 (AGA) で、MarCom のジョフロワ・コード委員長が PIANC 会長となったため、後任の MarCom 委員長にはスペイン人のフランシスコ・エステバン・レフラーが指名されました。また、セクレタリーは引き続きジャン・ベルナル・コヴァリック (フランス人) が務めることとなりました。

今回の会議の議事概要は下記の通りです。

① 前コード議長およびエステバン新議長のあいさつ

② 議事予定の確認

③ 新メンバーの紹介

今回の出席者は 9 名、インドより初参加のポイヤモツィが紹介された。

エジプトよりアデル・バナワン、イランよりアリ・アクバル・サファアエイが参加することとなったが、今回は出席していない。

④ D/F の発表

ジョフロワ・コード議長より、MarCom と InCom の専門家グループによる「内航船による海港への直接アクセス」について発表があった。来年 2 月を目標に取りまとめていくこととなった。

⑤ D/F の発表

WG49「航路の水平及び垂直寸法」D/F を、英ウオリングフォードのマクブライド議長が電話と PPT で発表した。

スペインと日本の手法についてはアペンディックス G で取上げることとなった。

報告書が厚くなりすぎないように、既刊の報告書ですでに記述されていることについては参照すればよいとの意見が出された。

D/F についての 10 月 5 日までにメンバーから意見を出すこととなった。

⑥ D/F の発表

W/G54「港湾へのアクセスの安全性を最適化するための海象・気象情報の活用方策」D/F をオーブライアン議長、ヤヴァリ、ヴァントーレが発表した。これをもとに議論が行われた。この D/F についても 10 月 5 日までにメンバーから意見を出すこととなった。

⑦ ベルリン AGA および ExCom についての報告

・気候変動に関する常設の Task Group が設けられることとなった。

・2012 年の AGA はヴァレンシア、2013 年の AGA はマルセイユで開催される。

⑧ “Top Tens” と MarCom の将来的なプログラム

MarCom でどの程度 WG を置いていくかについて議論がなされた。

次回会議で TOR を書く人を決めることとなった。

⑨ 活動中の WG についての進行状況報告

WG50 (海洋構造物設計の一般原則) (EG160 に改称)

WG135 (中小規模港湾におけるコンテナターミナル設計の原則)

WG144 (海上浚渫における土と岩の分類)

・次回会議で発表予定。

WG145 (接岸速度と防舷材の設計)

・キックオフミーティングが開催された。

WG152 (旅客ターミナルのガイドライン)

・近々キックオフミーティングが予定されて

いる。

WG153 (海洋石油ターミナル設計のための勧告)

⑩ 最終報告書

WG47 (防波堤の形式と最適破壊リスクレベルの選択基準)

・最終報告書が若干送れている。

WG48 (バウスラスタに関する港湾建設のガイドライン)

・プレゼンテーション後、長らく放置されていて問題。コード会長から催促することとする。

WG51 (水ジェット浚渫)

・2~3週間のうちに最終報告書がまとまる見込み。

WG52 (コンテナ船の積み込み(降ろし)基準)

WG55 (オイル・ガスタンカーの接岸作業の安全性)

⑪ 新しいグループの結成

WG146 (固形バラ貨物用の載せ替え浮体ターミナル)

WG147 (レクリエーション用、漁業用、商業用航路の設置、統合のガイドライン)

WG158 (既存港湾開発のためのマスタープラン)

・8人のメンバーがエントリーしている。

WG159 (海港における再生可能エネルギー)

WG161 (沖合風力発電風車と船舶航行の相互関係)

⑫ 目次の承認

WG145 (接岸速度と防舷材の設計)

・提出された目次(案)に対して、内容が包括的すぎるので、TORにそって衝突速度の議論に特化することとされた。

WG152 (クルーズ客船ターミナルのガイドライン)

・TORにそってまとめることとされた。

WG153 (海洋石油ターミナル設計のための勧告)

・オイルターミナルに特有でない問題(例えば、土圧とか)は不要。

⑬ 新しいWG (TORのドラフト)

・2つのTORドラフト(①新しい海洋コンクリート社会資本の耐久性と供用寿命に関する勧告、②ウォーターフロント構造物の供用寿命工学)について意見が交わされた。

重なる部分がないように両者の棲み分けに留意することとされた。

⑭ MarCom 報告書の出版に関するニュース

⑮ 特別報告

日本委員の樋口より「東日本を襲った津波と巨大自然災害に対する備え」との演題で報告を行うとともに、2010年に取りまとめられたWG53の津波に関する報告書にアペンディックスをつける形で、今回の災害で何が起こったかとこれに対する対応を発表したい旨提案した。これについて、MarComとしては前向きな意見だったが、前例もないことから、本部・ExComに実現に向け提案していくこととなった。

⑯ 他の委員会との協力

⑰ MarComの特別な活動

⑱ 次回会議

2012年のMarComについては、1月31日(火)~2月1日(水)にブリュッセルで、9月にドイツで開催することに決定した。2013年9月については日本(仙台?)、2014年9月についてはイタリア(ヴェニス)で開催される見込みである。

会議の翌日(16日)には、2005年8月のハリケーン・カトリーナ被害後に始められた高潮対策施設整備の現場視察が行われ、工事を担当している陸軍工兵隊から説明がありました。また、17日にはルイジアナ州の州立博物館で行われていたハリケーン・カトリーナに関する特別展示(living with hurricane, KATRINA & beyond)を見学しました。高潮と津波ではもちろん違う種類の災害ですが、被災者の生活再建、街の復旧・復興、防災の考え方の見直し等共通する課題も多く、東日本大震災後の対応に参考とすべき点もあるのではないかと考えさせられました。

(2011/09/29 記)

第 82 回 CoCom 会合出席報告

五洋建設(株)

大内久夫

日時： 2011 年 10 月 19 日(水) 13:30-16:30
場所： l'Union des Ports de France 事務、8
place du General Catroux, 75017 Paris

会議の概要は、以下の通り。

1. 出席、欠席の確認

共同議長 Edward Schmeltz、事務局 Peter Dewolf を含め、8 人の委員が出席。

もう一人の共同議長 Akula Rao は、急遽欠席となった。

2. 今回の議事内容の確認

事務局提案通り了解

3. 前回会合の議事録の確認

1 ヶ所のマイナーな変更があったが、その他は了解

4. Action Plan 2010-2014 についての討議

前回の ExCom で了解された Strategic Plan に基づく新たな Action Plan 2010 -2014 について、個別の項目毎に、実施者、関係機関、実施時期、現時点の状況確認を行った。(全体時間の約半分がこの討議に費やされた。)

5. 新規勧誘会員国について

議長 Edward より、各委員が 1 ヶ国について新たに PIANC 会員となるよう働きかけをしてほしい旨の要請があった。各委員が、どの国を担当するかは後日、事務局に連絡することとなった。

大内より、フィリピン PPA とのコンタクト内容を報告した。

他委員より、チリ、メキシコ、アルゼンチンの勧誘予定が表明された。

6. Organizational Structure and Activities についての討議

1) メンバー変更に関し、現委員の活動状況につ

いて確認が行われ、全く活動のない委員については、当該委員の所属する国内委員会に変更を求めることとなった。

2) 韓国の Mr. Young-Min をあらたに CoCom メンバーに加えるかどうかは、この話をすすめた議長 Rao が欠席したため、後日検討することとなった。

7. 小委員会報告

1) 研修と教育

研修のデータベース作成の進捗状況について、Stive 委員より報告があった。

日本の集団研修で、PIANC の WG 等の成果を教えるプログラムを組むことについては、報告書をそのまま提供しない限り問題ないとされた。

2) 地域グループ、COPEDEC については、特に議論がなかった。

8. 前回会合以降の活動状況についてのフォローアップ

項目毎に確認が行われた。

9. その他

特になし

10. 次回会合の場所と日時

PIANC-COPEDEC VIII の会合にあわせてインドのチェンナイで開催する。

日時は、2012 年 2 月 20 日から 24 日の間に 2 時間程度の時間をとって行う。

会議期間前日の 19 日午後の開催も検討する。